



# 海の向こうから

みなさん 明けましておめでとうございます。いかがお過ごしですか？編集長のキムテツです。広島街にもイルミネーションが点灯し、寒い冬がやってきました。世界各地で広島県出身の青年海外協力隊員が汗を流しながら活動に明け暮れていることでしょうね。2011年は、東北地方を中心に東日本大震災が起こりました。その際には、世界各地から温かい励ましの言葉や心温まる支援物資が多く届いていました。これも長年に渡り世界の国々と友好関係を築いてきた証なのでしょうね。2年間という短い活動期間ですが、地域の方々と交流を深め、地域に根ざした活動を期待しています。

思い出に残る2年間にしてくださいね

さてさて、広島県OB会を代表して、東日本大震災が起きてからすぐに行動を起こして、現地で復興作業を進められこの度広島へ戻られた細川光宜OBからお便りを頂きました。

## 東日本大震災 復興ボランティア活動

細川光宜さん  
H8年度2次隊  
木工  
パプアニューギニア



東日本大震災 被災地支援活動報告

活動場所 3月22日～4月30日 宮城県 石巻市 渡波小学校

6月3日～11月7日 宮城県 気仙沼市 大島

3月11日 ただ呆然と、震災のニュースを見ていた。何も出来ずに・・・次の日、外国の友人から言われた一言にハット我に返った、「あなたは、日ごろボランティアを勧めるが、東北へは行かないのか？」衝撃を受けた、昨年までJICAの仕事で国際協力について、子どもたちに語っていた事・・・「国際協力とは・・・難しい事ではない。困っている人がいるから・・・」震災当時、私は委託されていた仕事も終わり、専門学校で勉強中、卒業式は一週間後の18日、ここで立ち上がらないと、今まで言っていた事、やっていた事が嘘になる。そう思った。4月からの仕事は決まっていたが、取り合えず待つてもらうことにして、一週間で出発準備。必要な物資は、すべて友人がまとめてくれた。燃料不足が伝えられたた







め、ガソリン 200L、支援物資をワゴン車に詰込める限界まで詰込んで 22 日に出発。行き先は、石巻市の渡波小学校。青年海外協力協会中国支部 込谷支部長からアドバイスをを受け、渡波小で炊出しを始めていた、協力隊エジプト OB 佐藤氏のプロジェクトに合流した。当初活動していた協力隊のエジプト OB から引き継いで、1日 1200食を必死で毎日作った。1階に津波の押寄せた泥だらけの避難所・渡波小学校だったが、数日すると全国から次々と協力隊 OB が集まり、それぞれの技術を生かし、避難所の改善に取り組んだ。栄養士は炊出しメニューを決め、看護師は感染症を防ぎ、電気設備隊員は電気を通し、柔道隊員は瓦礫の山を力強く片付けていった。

私自身は、5月に一旦広島に帰り、現状報告会を開いて、更なる支援を呼びかけた。「青年海外協力隊広島県 OB 会」「広島県協力隊を育てる会」「ボランデポひろしま」多くの団体、友人が支援を約束してくれた。1人ではないんだと思った。6月、被災地に向けて再出発した。協力隊での派遣国は、PNG※1。PNGOBならばさらに過酷な場所を目指すべきと思い、石巻を後にして、そのころボランティアがほとんど来ていなかった気仙沼 大島へ。そこで待っていたのは、瓦礫の山。そして必死に頑張る大島の若者たちだった。その名も「おバカ隊」。彼ら自身も被災者で、家も親

族も仕事も失って、なお島のために頑張っていた。そんな状況でも、暗くならずバカな冗談を言いながら楽しく前を向いて進みたい、そんな思いからこの名前が付いた。7月17日には、青年海外協力隊広島県 OB 会を中心としたメンバーが大島に来て、仙台フィルの演奏会を企画。石巻 OB プロジェクトの仲間も来て炊出しで応援してくれた。その後、青年海外協力協会の福寄 OG がネットで大島におけるボランティア活動を紹介してくれ、以後続々と協力隊 OB が参加。おバカ隊の活動が、ニュースゼロで放送されてからは、さらに多くのボランティアが島を訪れ、ガレキの山と戦ってくれた。みんなが集まれば何でも出来る、今年中には終らないと思っていたガレキが次々と片付き 11月には、ほとんど無くなっていた。帰る時が来た。ボランティアはいつまでも居てはいけない。地元の人には出来ることは任せて、・・・それが私が協力隊で学んだことだった。今、大島では、津波で流されてしまった養殖筏の再生がようやく始まった。筏がなければ養殖漁業は始まらない。これまで大島のために一番頑張ったおバカ隊の人達が一番後回しにしてきた仕事でもある。私自身今はもう大島を離れてしまったが、ボランティアとして本当は一番これをやりたかった。

残っているボランティアの仲間・おバカ隊のみんな頑張れ！広島から応援し続けます。

※ 1. PNG (パプア・ニュー・ギニア) = もっとも過酷な協力隊の派遣国。



ご紹介が遅くなりましたが、派遣中の隊員の皆様が一番お世話になっているだろうと思われる方をご紹介します。着任から 9 ヶ月が経ちましたが、大塚さんから送り出された隊員の方も多いのではないのでしょうか？東京から広島へ移り住んできて広島弁も自然になってきたのでは… 大塚さ——ん宜しく

## ニューフェイス

大塚善久さん  
H18 年度 3 次隊  
村落開発普及員  
マラウイ



青年海外協力隊広島県OB会のみなさま、こんにちは。  
3 月 1 日付けで JICA 国際協力推進員として着任いたしました、大塚善久（おおつか よしひさ）です。早いもので 9 ヶ月が経ちましたが、おかげさまで充実した広島生活を送っています。広島に来て一番ハマったものは、なんとと言っても「おさしのおすび」と「カーブ観戦」この組み合わせは最高！  
それはさておき、推進員の仕事の最大の魅力は「たくさんの人との繋がり」です。JICA ボランティアと受験～帰国後まで関わり続けられること、教育現場で先生から生徒まで幅広く接することができること。人好きの私にとっては、本当にやり甲斐のある仕事です。  
OB のみなさんも日々忙しいことと思いますが、まずは今後、以前にも増して、広島県から途上国に飛び立つ JICA ボランティアを「熱く」応援していきましょう！推進員としても、イチ OB としても「色あせない情熱」で奮闘しますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

最近帰国されて、広島で活動を再開されたOB・OGを紹介するコーナーです。  
今回は、1 年前に帰国された小池さやかさんの登場です～

## OB紹介

小池 さやかさん  
H20 年度 1 次隊  
美術  
エジプト



- お名前は？ : 小池さやかです。
- どちらに派遣されたのですか？ : エジプトです。
- 隊次は？ : 20-1 です。
- 職種は？ : 美術です。
- 派遣中はどのような仕事を？ : 私立の学校に併設された知的障害児 50 名が通う特殊教育学部の教員でした。情操教育の 1 つである「陶芸」の授業の担当。4 歳から 18 歳までの子達と学校の行事に合わせた物を作ったり、楽しむ時間の陶芸だったり。収入を得る為に、作った物を近くの美術館やイベントで売っていました。
- 派遣前の職業や簡単な経歴を
- なぜ行こうと思ひましたか？ : 美術学校の陶芸科卒業。仕事は知的障害の生活支援員をしていました。  
: 以前から海外に興味があったのと、旅行でなく生活したいと漠然と考えていた。ボランティアが特別な事ではなく、自分の中で、普通の事として考えられる大人でありたいなど思っていた。募集要請を見ると、行ってみたかったエジプトで知的障害児に陶芸を教えるという内容を発見。



8. 行ってみての感想

これだ♪とすぐに応募したのを覚えています。

: 終わってみれば幸せな時間だったな〜、と。宗教も人種も違う人達だけど、気持ちが通じる瞬間や人を想う気持ちに触れた時、そんな優しさに何度も自分の気持ちが満たされたのを覚えています。行って良かった！また行きたい！が今の気持ち。

9. 帰国後の職業（現在）

: 高齢者の福祉施設職員。

10. お仕事にボランティアの経験が生かされましたか？

: どうだろう？特に分かりません☆

11. 派遣中の隊員にアドバイスを

: 終わってみればアツという間。活動は計画通りにはなかなか進まない…。けど！悩んだことも、腹立った事も、全てが笑える良い思い出。特別な隊員時間を思いっきり楽しもう♪

12. 帰国後、任国へ遊びに行かれましたか？ : 1年後に行きました♪行って、会いたい人達、町並み、学校の様子を自分で確認して、スッキリして戻ってきました。楽しみにまた、待っていてくれるお友達、家族がいると思うと、自分の中の恒例行事にしたいくらい、また行きたいです。情勢悪化にエジプトの人達が苦しんでいるニュースは、気が気でなく心配です。早く平和な気持ち穏やかに過ごせるエジプトになってくれれば…と願っています。



2011年度も国際協力、国際交流を行っていく上で必要な技術や知識を再確認出来るセミナーが2度開催されました。まだ受講されたことが無い方。来年度も計画されていますので是非、お気軽に足を運んでみてください。今回は、村上さんからメッセージ頂きました。

# スキルアップセミナー

村上 加枝さん  
H16年度2次隊  
環境教育  
コスタリカ



## 第1回スキルアップセミナー「東日本大震災を通して」

今年度最初のスキルアップセミナーは、9月に国際会議場で「東日本大震災を通して」というテーマで開催しました。

OB会のスキルアップセミナーの目的は、JICA ボランティアOBが地域住民のJICA事業・国際協力に対する理解促進、地域の国際協力及び交流に係る関係者間の連携強化の活動をするための技術や知識の向上です。そして、もうひとつ大事な目的として、私達のボランティア経験を地域社会へ還元するための支援です。

そこで、今回は、JICAボランティア経験を活かして、3.11東日本大震災の被災地である気仙沼大島で災害復



興活動をしている青年海外協力隊隊員OBの細川光宜さん（H8-2パプアニューギニア）の経験談を中心に、改めて震災、そしてボランティア活動を考えるセミナーを行いました。

細川さんは、3月から継続して被災地でボランティア活動をされています。報道だけでは分からない被災地の状況や災害復興で頑張っている現地の若者のみなさんやボランティアの人達の話を知ることができました。最後に、JICAボランティアをした人達は、必ず被災地でボランティアとして役に立つので、是非、活動してほしいと力強く言われていたのが印象的でした。



また、石津智久さん（H16-2 コスタリカ）から、福島県大熊町にある自閉症児親の会「スマイル」に対するボランティア活動についての説明があり、「スマイル」の方々を広島に招待したプロジェクトの報告をされました。

これらのお話を通して、ボランティア活動とは何かということ、また、私達の海外でのボランティア経験を、今後国内でどう活かしていくかを考えるよいきっかけになりました。

また、中林樹理さん（H18-1 タイ）によるワークショップでは、震災を通して分かった各国から日本への国際協力、また、震災直後の気持ちやその後改めて考えたことを意見交換し、参加者のみなさんそれぞれが感じた気持ちを共有しました。

このワークショップを通して、自分たちの震災への思いについて整理し、自分の価値観、人生観を改めて考え直すことができたような気がします。

今回、国際協力ではなく地域貢献としての「ボランティア活動」を考えたスキルアップセミナー。参加者のみなさんからは、とても好評でした。今後も、様々な視点で私達の活動に活かせるテーマでセミナーを開催していきたいと思えます。

## 第2回スキルアップセミナー

### 「磨こう国際人として」(2011.11.3)

第二回目のスキルアップセミナーは、国際交流の日にOB会が実施する「任国紹介・クイズ」のリハーサルと講演会「磨こう国際人として」の二部構成で実施しました。

第一部では、祝迫直子さん（20-1インドネシア）、小池さやかさん（H20-1 エジプト）、竹内英祐さんと飛騨英司さん（H20-4 ウガンダ）、西村佳徳さん（H14-1 パナマ）の計5人のみなさんが、活動した国の紹介、協力隊活動について発表し、任国クイズのプレゼンテーションを行いました。これは、本番前にリハーサルを行うことで、発表者と参加者の意見交換をもとに、プレゼンテーションのスキルアップを図ることを目的に行ったものです。



ファシリテーターの中林樹理さん（H18-1 タイ）のもと、プレゼンテーションについての意見交換が行われ、私たちが協力隊活動を一般の人達に発表する際に役立つポイントやノウハウを学ぶことができました。発表者の話し方やクイズ内容があまりにも面白くて、活発な質疑応答でおおいに盛り上がりました。協力隊OBでも興味深かったクイズ、国際交流の日の本番の参加者の反応が楽しみです。

第二部は、広島経済大学 徳永博充准教授に講演していただきました。徳永さんは、NNNニューヨーク特派員、広島テレビ放送（株）報道制作局映像センター長、そして、同社福山支部長を経て、現在大学でジャーナリズムを教えていらっしゃいます。

テーマは、「磨こう国際人として」ということで、ジャーナリスト時代の経験で培われた国際感覚や、北米・中南米の歴史や文化、価値観などを講演されました。

そのお話の中で、「共感力」についての話がありました。共感力は様々なことに興味をもつ「好奇心」と素直な心

で物事を捉える「謙虚さ」により備わるものであり、その力の効果は「社会を柔軟にすること、そして物事をシャープに捉えること」であると説明がありました。そして、「協力隊OBは、協力隊活動で様々な文化やしきたりを受け入れたことを通して、その共感力を持っている。どうか、その力を社会でどう活用し、行動していけるかについて考えてほしい」と言われました。このお話を聞きながら、私は、日本社会に復帰して月日が経つ毎に、協力隊で得た好奇心、謙虚さ、そして共感力がどんどん無くなっている自分に気がきました。他の協力隊OBのみなさんはどう感じられたのでしょうか？

今回の講演で、私達が協力隊経験で身に付けた「共感力」を今後どのように維持し、私達の現在の活動の場で生かしていくかを考えるきっかけとなったのではないかと思います。

以上のように、**第二回スキルアップセミナーは22人の参加**があり、実りのあるセミナーとなりました。続々、新しい参加者も増えています、みなさんも是非ご参加ください！

## 活動支援報告

石津 智久さん  
H16年度3次隊  
野菜  
コスタリカ



### ◆広島県OBによる被災地支援活動への後方支援◆

今年3月11日に発生した東日本大震災。これまでに国内外を問わず多くの支援、応援が被災地へ届いています。広島県のJICAボランティア経験者も様々な形で被災者支援活動に係わってきました。

そんな中、青年海外協力協会（JOCA）では、各県OB会による被災地支援活動を資金面で後方支援するための「震災支援特別事業費（各県上限10万円）」が立ち上がり、今回、広島県OB会として以下の2名のOBによる活動を支援することが決まりました。

#### ▼ 細川光宜OB（8年度2次隊/パプアニューギニア/木工）

活動拠点：宮城県気仙沼大島

支援内容：軽トラック用スタッドレスタイヤ5台分

⇒軽トラは瓦礫や支援物資の運搬には欠かせず、冬場には路面が凍結する気仙沼大島では、スタッドレスタイヤの装着は必須であるため。

支援金額：90,000円

#### ▼ 根波優司OB（20年度1次隊/モロッコ/体育）

活動拠点：岩手県岩手県岩泉町立小本中学校

支援内容：図書99冊（教員および生徒からの希望に沿ってリストアップしたもの）

⇒以前から生徒に読書が習慣付けられていた学校において、津波によって失われた図書を提供することで、より充実した学校生活を送ってもらうため。

支援金額：34,837円

なお、広島県OB会としても2名の活動を支援するため、10月29、30日に開催された国際交流フェスティバル「べあせるべ」においてチャリティーバザーを実施し、その売上【26,100円】全額を支援金として寄付しました。

【収入】124,837円 <26,100円（バザー売上）+98,737円（JOCA震災支援特別事業費）>

【支出】124,837円 <90,000円（細川OB）+34,837円（根波OB）>

被災地へ義援金や支援物資を送ったり、短期間のボランティア活動に参加するような直接的な支援が必要なのはもちろんですが、今回のような大規模且つ甚大な被害からの復旧となると、長期間支援活動に携わる人を支えるための後方支援



も非常に重要になってきます。実際に、これまでに多くの個人、団体の方々からOVによる被災地支援活動への支援金が贈られており、広島県協力隊を育てる会の皆様からは、広島県OB会に15万円の支援金をいただきました。この15万円は、震災直後から被災地で活動を続けてきた細川OBの活動費と移動介護入浴車購入資金の一部として活用されました。改めまして広島県OB会一同、皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

震災発生から9ヶ月が経ちましたが、未だ復興どころか復旧すらままならない地域も多く残されています。引き続き、我々一人一人に何ができるかを考え、行動していきましょう！

※細川OBと根波OBからの報告は、次回の会報にてお伝えします。



移動介護入浴車と気仙沼大島で活動する細川OB



岩手県で国内協力員として活動中の根波OB（後列中央）：JICA東北HPより



「べあせろべ」のチャリティーバザー

# 告知

広島県OB会では、新ボランティアの出発時期に合わせて年4回6月、9月、12月、3月に「壮行会&お帰りなさい会」を開催しています！出発前のボランティアや帰国したばかりのボランティア、OB/OGやJICAの方など様々な人が集い、毎回食べながら、飲みながら、楽しく交流を深めています。この3月にも開催予定ですので、まだ参加したことのない方もぜひ気軽にご参加ください☆

次回の開催予定日：3月

毎回、開催日時が決まったらOB会メーリングリストでご案内しています。こちらチェックしてみてくださいね！！

これまでに何百人もの広島県出身OBを見送り・出迎えて来たイベントです。是非多くの人で祝おうではありませんか。多数のご参加お待ちしております。

続いて、派遣中の隊員のご家族の意見交換・交流の場として愛されてきた留守家族連絡会が今年も開催されます。

色んな話が聞けるので是非、ご家族に連絡してあげてくださいね。きっと皆様の活動に理解を示して帰られることでしょう。担当の久田さん どうぞ

## 留守家族会

久田 光孝さん

H12年度2次隊

村落開発普及員

パプアニューギニア



はいマイクを受け取りました 担当の久田です。



下記日程で派遣中の留守家族を招いて連絡会をします。

日時:2月18日(土)

(AM 8:00頃 より準備開始)

場所:留学生会館(広島駅近く)

OB達が任国料理を振る舞い、ご家族が「うちの娘(息子)はこんな料理を食べていたんだ?!」と盛り上がるイベントです。またご家族の皆さんの自己紹介は、毎年笑いあり、涙ありで大盛況です。自分自身の派遣中は全然気付かなかった「親の思い」も分かります。

## 派遣前アンケート

年4回派遣となり3ヶ月に1回のペースで続々と派遣されています。皆さまに派遣前の意気込みを聞いてみました。(壮行会に参加されてアンケート提出があった方のみ掲載しています。)

スペースの関係上、一部文章を割愛させていただきました。) )

22年4次隊

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
安江 香	栄養士	グアテマラ	エジプトでストリートチルドレンの子どもにお金を無心されたとき何もしてあげられなかったから	2ヶ月経って色々な言葉を話せるようになって驚いた	自分のやるべきことにしっかり目を向けて頑張る	現地の人の心に残り、つながっていく活動をした
茗荷谷文枝	幼児教育	エクアドル	学生時代にJICAのCMを見て	語学クラスの仲間が自分の誕生日を祝ってくれた事	やっと夢が叶うという気持ちでいっぱいです	現地の人と協力しながら、その土地に根付くような活動をしたい



23年0次隊						
宮野宏子	日本語教師	アルゼンチン	自分の目標達成までの経験として	多くの異なる環境の方と出会えたこと	残していく家族が心配です	

23年1次隊

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練で辛かったこと	楽しかったこと	出発前の不安
寺元正典	野菜栽培	ネパール	現職時代の経験を活かして貢献できればと	語学研修	他の人との交流	なし
澤邊佳彦	生態調査	ケニア	友達のすすめ	睡眠時間が少ない	全て	なし
田村陽子	養護	エクアドル	高校のときポスターを見て	スペイン語の勉強	いろいろな人に出会えた	語学
和田絵莉子	体育	セネガル	大学の先生がJICAの専門家だった	語学訓練	集団生活	任地の治安
上野優香	小学校教諭	ネパール	子どもの頃から興味があった	人間関係	語学訓練	語学が不十分
井上結子	村落開発	ボツワナ	人の役に立ちたいと思った	団体行動	生活班で取り組んだ文化祭	情勢不安
麓美奈	理数科教師	エチオピア	以前から行きたいと思っていた	語学力不足	同期との絆が深まった	語学
大宮加代子	言語聴覚士	フィリピン	高校の頃からの憧れ	英語のテスト	隊員によるイベント	なし

23年2次隊

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
岩淵宏美	小学校教諭	マリ	中学のとき社会の授業で協力隊を知った	バンド活動	楽しみしかない	期待しててください
小田美由紀	看護師	ベナン	人のためにも生きていける自分でありたい	みんなと食べる食事	準備が大変	ベナンの人々と共に歩む2年間にしたい
後藤沙織	作業療法士	ベトナム	小学校の道徳の授業に隊員OBが来て話を聞いた	みんなでの打ち上げ、週末の飲み会	不安と期待が半分ずつ	無理をせず、健康と安全第一で頑張る
和田恵子	感染症	ガーナ	感染症に興味があった	クラスのみんなど仲良くなった	行くしかない	マラリアを極めます

西岡唯美	村落開発	ミクロネシア	海外の友人の家を訪ねたとき、女性の社会進出が進んでいなかったことやジェンダー問題がまだ残っていたこと	たくさんの人のバックグラウンドを聞くことが出来た	不安と期待で胸がいっぱい	あせらず頑張ります。
植松 裕	水産資源管理	マーシャル	海外に興味を持ったこと	語学訓練	ワクワクします	無事に帰ってきたいと思います。
池田陽介	村落開発	トンガ	以前から興味があった	英語でのプレゼン	とても楽しみ	現地の人に喜んでもらえるような活動をしたい
佐藤哲夫	食品安全管理監査	チリ	現役退職後の生きがい求めて	集団生活 & 語学訓練	まだ落ち着かない	チリの友達をたくさん作りたい
亀井且博	廃棄物処理	マーシャル	自分の持っている知識を役立てたい	若い人との語り	期待と不安	自分の力を可能な限り発揮してきます
北村信二	野菜栽培	トルコ	定年を機にこれまでの経験を活かしたかった	いろいろな人との出会い	言葉の壁に不安	気負わず自然に
松川一和	農業機械	P N G	O B のすすめ	共同生活	とても心配	健康でいたい

### 編集室から

昨日、広島で初雪が降りました。寒いなあ。毎年、この季節になると派遣中の皆様の元へこの会報をお届けする季節だなあとしみじみ感じます。編集に協力してくれたOBの方々ありがとうございました。これからもたくさんの隊員・OBを紹介していきたいと思います。白羽の矢がたった方は、ご協力お願いしますね。また任国からの情報が不足しています。いつでも構わないので任国での面白エピソード・活動紹介などお待ちしております。



投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで↓

編集長：木村 哲也  
(17年度3次隊 ホンジュラス 建築)

hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp (OB会メール)  
or lifetetsu@hotmail.com (編集長直接メール)

編集室所在地：広島県東広島市  
木村哲也建築デザインオフィス内

